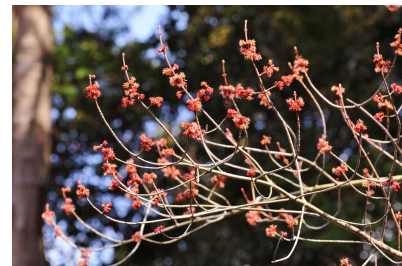


「ハナノキ」について調べるには

ハナノキはカエデ科の落葉性広葉高木でハナカエデとも呼ばれます。北花沢・南花沢にあるハナノキは、ともに自生する巨木の最西端として大正13年に国の天然記念物に指定されています。これらの木々は今から1300年余り前、百済寺を建立しての帰りに聖徳太子がこの地で昼食をとり、その折、使っていた箸を地面にさされ、その箸が成長してハナノキになったという伝説があります。南花沢のハナノキは「新・日本名木100選」に選定され、ハナノキの中では日本最大の巨樹です。（『まるごと東近江百科』より）



図書館の資料で調べる

①ハナノキ伝説について調べる

◆『近江の名木・並木道』

滋賀植物同好会／編、サンライズ印刷出版部、2003年

北花沢・南花沢のハナノキとも記述あり。樹木の幹周や樹高・推定樹齢、樹木医による木の治療経緯についても書かれています。一部カラー写真あり。ハナノキ記述：鹿田良男氏

◆『滋賀の巨木めぐり』

滋賀の名木を訪ねる会／編著、新評論、2009年

ハナノキのいわれ、カラー写真あり。ハナノキ記述：田中勲氏。

◆『湖東町史 下巻』

横田 英男／著、湖東町役場、1979年

「文化財」の章で「北・南花沢のハナノキ」として数ページにわたる記述あり。余禄としてハナノキに関係する江戸時代の古文書の記述、明治・大正時代の伝承、ハナノキを詠んだ歌もあります。「伝承と伝説」の章では花の木伝説として、安産や病氣治癒の信仰についても書かれています。

◆『湖東町の伝承と伝説』

横田 英男／編著、サンブライツ出版、1987年

湖東町史編集に携わった著者による、湖東町各地に残る伝承、伝説などをあつめたもの。その中で「花沢の花の木」として、伝説と信仰について書かれています。

◆『湖東町のむかし話』

湖東町教育委員会／編、1979年

伝承の項に「花の木」として、1. 花相 1. 信仰と霊験 3. 神木の祟り 4. 献木の次第 について書かれています。記述：野村繁太郎氏

◆『だいじょもん椿』

平居 一郎／著、アトリエ・イオス、2007年

湖東町に伝わる昔話を、著者が語り言葉で創作編集したもの。その中に「ハナの木」として江戸時代にハナノキが暴風雨により損傷し、復活した話を収めています。

②植物としてのハナノキを調べる

◆『湖国百選 木』

滋賀総合研究所／編、滋賀県、1991年

P73に「花沢の花の木」として1ページ記述あり。植物学者・故牧野富太郎氏による「南花沢のような温暖で乾燥した土地に育つということはまことに珍しく、幹が太く樹齢が古いのはまれである」という説も引用しています。

◆『滋賀県文化財学習シート 史跡名勝天然記念物編』

滋賀県教育委員会事務局文化財保護課、2008年

「南花沢のハナノキ」「北花沢のハナノキ」とも各2ページずつの記述あり。関連する文化財として、日本の他の地域のハナノキの情報もあります。

◆『日本の野生植物 木本Ⅱ』

平凡社、1989年

植物学的な記述とともに、花が咲いた時・紅葉した葉・樹皮・拡大した雌花・雄花のカラー写真があります。

◆『市政ガイド 平成19年度』

東近江市／編、2007年

「東近江市八選」の選定理由を記述しています。